

# 非がん性慢性疼痛に対する オピオイドの「使いどき」と「使い方」

伊達 久 (仙台ペインクリニック院長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>をご参照ください。

▶ 登録手続

1	オピオイドとは	p2
2	オピオイドの分類	p2
3	非がん性慢性疼痛に適応のあるオピオイドの種類とその特徴	p4
4	非がん性慢性疼痛のオピオイドの使用目的	p8
5	非がん性慢性疼痛におけるオピオイド治療の適応患者	p10
6	オピオイドの開始にあたって	p12
7	オピオイド治療の開始の仕方	p15
8	オピオイド治療のモニタリング	p16
9	オピオイド治療の受診間隔	p16
10	突出痛への対処法	p17
11	非がん性慢性疼痛におけるオピオイド治療の推奨用量と治療期間	p19
12	オピオイド治療を終了するとき	p20
13	非がん性慢性疼痛におけるオピオイド治療のまとめ	p21

▶ HTML版を読む

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

# 1 オピオイドとは

オピオイドは、オピオイド受容体に結合するペプチドの総称である(図1)。日本ペインクリニック学会の『非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン改訂第2版』<sup>1)</sup>では、「主に神経系に分布する、アヘンが結合するオピオイド受容体に親和性を有する物質の総称」と簡潔に定義されている。また、日本緩和医療学会の『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2020年版』<sup>2)</sup>では、「麻薬性鎮痛薬やその関連合成鎮痛薬などのアルカロイドおよびモルヒネ様活性を有する内因性または合成ペプチド類の総称」と定義されている。

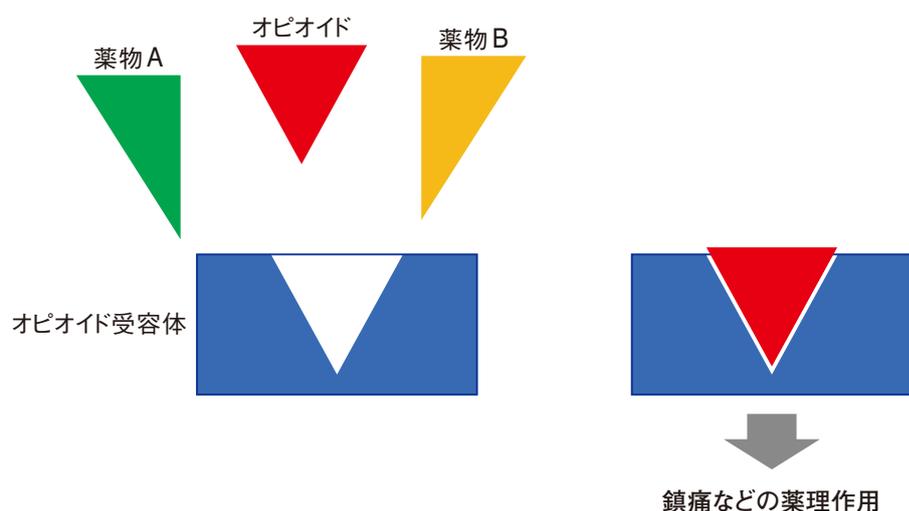


図1 オピオイド

オピオイドは、オピオイド受容体に結合して鎮痛作用のほか、便秘や眠気などの作用も引き起こす

## 2 オピオイドの分類

オピオイドの分類には、痛みの強さによる分類(表1, 2)、法律上の分類(表3)、保険診療上の分類(表4)などがある。

痛みの強さによる分類としては、「弱オピオイド」「強オピオイド」という表現(表1)が一般的に用いられているが、薬理的に強オピオイドに分類されるブプレノルフィン<sup>®</sup>は、貼付剤であれば血中濃度の上昇が緩徐であ

ることから弱オピオイドに分類されることもある。そのため、患者の痛みの強さによる分類(表2)を用いることもある。世界保健機関(WHO)が以前分類していた三段階除痛ラダー<sup>3)</sup>でも「軽度から中等度の強さの痛みに用いるオピオイド」「中等度から高度の強さの痛みに用いるオピオイド」と表記されていた。それに伴い、日本ペインクリニック学会の『非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン改訂第2版』<sup>1)</sup>や『神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版』<sup>4)</sup>では、表2のようにオピオイドを3つに分類している。

**表1** オピオイドの薬理的な強さによる分類

分類	主な薬剤
弱オピオイド	コデイン, ترامadol, タペンタドール
強オピオイド	モルヒネ, オキシコドン, フェンタニル, メサドン

ブプレノルフィン<sup>5)</sup>は薬理的には強オピオイド、貼付剤としては弱オピオイドに分類されることが多い。タペンタドールも強オピオイドに分類されることがある

**表2** オピオイドの患者の痛みの強さによる分類

分類	主な薬剤
軽度	コデイン, ترامadol
中等度	ブプレノルフィン貼付剤, タペンタドール
強度	モルヒネ, オキシコドン, フェンタニル, メサドン

日本ペインクリニック学会の『非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン改訂第2版』<sup>1)</sup>や『神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版』<sup>4)</sup>では上記のように3つに分類している

「麻薬及び向精神薬取締法」および「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(薬機法)では、オピオイドは表3のように分類される。なお、コデインは1%製剤と10%製剤が存在するが、1%製剤は規制のない処方箋医薬品に、10%製剤は医療用麻薬に分類される。

**表3** オピオイドの法律上の分類

分類	法律上の分類	主な薬剤
拮抗薬	処方箋医薬品	ナロキソン
鎮痛薬	処方箋医薬品	トラマドール, 1%コデイン
	向精神薬	ブプレノルフィン貼付剤
	医療用麻薬	モルヒネ, オキシコドン, フェンタニル, 10%コデイン, タペンタドール, メサドン

「麻薬及び向精神薬取締法」および薬機法上の分類は上記の通りである。なお、ケタミンはオピオイドではないが、医療用麻薬に分類される

保険診療上の分類としては、非がん性慢性疼痛にのみ適応があるもの、がん性疼痛にのみ適応があるもの、非がん性慢性疼痛にもがん性疼痛にも適応があるもの、の3つに分類される(表4)。しかし、保険適用に関しては2022年3月現在のものであり、今後、保険適用拡大により適応が変わってくる可能性もある。

**表4** オピオイドの保険診療上の分類

分類	主な薬剤
非がん性慢性疼痛にのみ保険適用がある薬剤	ブプレノルフィン貼付剤, トラマドール/アセトアミノフェン合剤
がん性疼痛にのみ保険適用がある薬剤	タペンタドール, メサドン
非がん性慢性疼痛にもがん性疼痛にも保険適用がある薬剤	コデイン, トラマドール, モルヒネ, オキシコドン, フェンタニル貼付剤

トラマドール単剤では非がん性慢性疼痛にもがん性疼痛にも適応があるが、トラマドール/アセトアミノフェン合剤は非がん性慢性疼痛にのみ適応がある

## 3 非がん性慢性疼痛に適応のあるオピオイドの種類とその特徴

### (1) コデイン

コデインは肝臓で代謝されてモルヒネに変換されて鎮痛効果を発揮する。そのためコデインを投与することは低濃度のモルヒネを投与すること